

# 活動報告

## 日本史研究推進委員会秋季講座

### 集中講座「近現代史を学ぶ」

会場 県立港南台高校

昨年より始まったこの講座は十一月六日から三回にわたって県立港南台高等学校・柏陽高等学校の二・三年生の希望者を対象に行われた。

従来授業時間の関係であまり詳しく触れることのできなかった戦後史を中心とした近現代史の講義だが、特に「思考・判断」「資料活用」を重視した新たな視点からの授業実践を、パソコン、プレゼンテーションソフトなどを使用しながら試みる画期的な授業を行った。

第一日 十一月六日(土)

講師 新谷 桂(県立港南台高等学校)

時間 生徒対象講義 九:〇〇〜一一:〇〇

受講者 県立港南台高等学校二・三年生 二六名

県立柏陽高等学校三年生 四名

講義教室 コンピュータ室

講義形式 プリントによる学習だが、黒板はいっさい使わず、生徒一人に一台割り当てたパソコンのモニターにプリントと同じものを提示し、解説しながら時間差を付けて正解を出す方式を採った。さらにその内容に関連する写真や地図、文献史料など

もモニターに映し出した。これはいちいち資料集を開けたりする時間のロスをなくせるので、後の生徒からの感想では非常に好評だった。

#### 戦後史プリント No 4 朝鮮戦争と独立の回復

##### 1 米ソ二大陣営の対立=冷戦の開始

- 1) [ア]の成立(45.10) 51ヶ国参加(連盟は当初42ヶ国)  
2003年1月現在、191ヶ国が加盟  
サンフランシスコ会議(45.4) → 国連憲章採択(45.6)  
主要機関 総会・安全保障理事会(5大国の拒否権あり)
- 2) 冷戦Cold Warの始まり「鉄のカーテン」  
チャーチルの演説(46.3)
- 3) 米の共産主義「封じ込め政策」(47.3) 大統領[イ]の  
[イ]ドクトリン  
軍事基地でソ連を包囲・共産主義勢力の膨張への封じ込め
- 4) 米の欧州諸国経済援助計画「マーシャルプラン」(47.6)  
国務長官マーシャル西欧16ヶ国に経済復興の援助、  
反ソ陣営を強化 → 冷戦の開始

[ウ]はコミンフォルムを結成して対抗(49)  
ベルリン封鎖(48) NATO[=エ]機構の結成(49)

- 5) [オ]国の成立(48) 大統領 李承晩(イスマン)  
[カ]共和国の成立(48) 首相 金日成(キムイルソン)
- 6) [キ]共和国の成立(49)

毛沢東(モウタクトウ)

蒋介石

共産党の[ク]が国共内戦に勝利、[ケ]の率いる国民党政府を台湾に追放

国際連合

トルーマン

ソ連

北大西洋条約

大韓民

朝鮮民主主義人民

中華人民

講義内容 「戦後の民主的改革と冷戦」

「日本の独立と外交政策」

第二日 十一月三日(土)

講師 木村芳幸①(県立柏陽高等学校)

半澤朝彦②(明治学院大学国際学部講師、専門 国際

関係論、国際政治史、国際機構論、イギ

リス帝国史)

時間 生徒対象講義 九・〇〇～一・三〇

受講者 県立港南台高等学校二・三年生 二一名

県立柏陽高等学校三年生 一名

講義教室 コンピュータ室

講義内容 ①「新傾向の問題について」

新指導要領で重要視されている資料を「よむ」力を判断するためにセンター試験などで出題が予想される問題や、それを先取りした既出の入試問題などについて演習・解説し、絵画・写真などの資料から歴史を読みとくことの大切さについて講義をした。また、新指導要領の背景とされる社会状況の変化やもめられる「学力」の定義の変化についても言及し、現代社会でもとめられる生きる力の意味についても言及をした。短い時間であったので他の先生方のように教師と生徒とのやり取りを設定する場面をつくるまでにはなかなか至らなかった点が反省点である。



木村芳幸先生 (柏陽高校)

②「戦後日本の国際関係、そしてODA、イラク派兵」

サンフランシスコ講和条約以降、戦争で日本が与えた損害に對しての請求権を英・米・オーストラリアなどは放棄したものの、フィリピンやインドネシアなどには日本政府は当時の金額で一兆三百億円以上にのぼる戦後賠償を行った。

これは金銭ではなく発電所建設やダム建設、港湾建設、船舶供与、トラック供与などを、日本政府から円を渡された日本企業が相手国に提供する形式をとったのだが、これが現在の発展途上国へのODA(政府開発援助)の原点になっていることが指摘された。またその中の無償資金協力の地域配分では、アフリカ・中南米の合計がアジアよりも多い事実も意外だった。

また戦後日本の外交も、独立時に西側諸国との片面講和、安保条約締結で米軍の駐留を認めたためアメリカの外交路線から大きく逸脱するのが困難になったことに言及し、その延長に自衛隊のイラク派兵があることを指摘されていた。

第三日 一月二一日(日)

講 師 松本靖史①(県立横浜立野高等学校)

新谷 桂②(県立港南台高等学校)

時 間 生徒対象講義 九〇〇〜一一〇〇

受 講 者 県立港南台高等学校三年生 二二二名

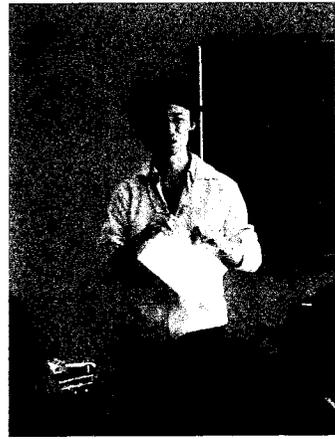
県立柏陽高等学校三年生 三名

講義教室 コンピュータ室 会議室

講義内容 ①農村と都市―農民と労働者

今回の集中講座の主題が「近現代史を学ぶ」であり、また「思考・判断」「資料活用の技能・表現」を重視した講座であるため、近代(戦後間もなくの時期まで)の農村と都市、および農民と労働者に関するさまざまな問題をグラフや絵、写真を使って考える講座を設定した。

最初に、近代の農村(農民)と都市(労働者)に関する歴史を概観し、その上で、いくつかのグラフや絵、写真を提示し、いつごろの何に関するグラフなのか、またそれぞれのグラフを



半澤朝彦先生(明治学院大)

読み解くポイントを生徒に考えてもらい、そのうえで解説を加えるという授業展開を考え実施した。

五〇分という短い時間でということもあり、一方的な講義調の講座になってしまったが、自分自身も教科書や図説の解説以外の「グラフの絵解き」をすることができた。たとえば、図説に掲載されている工場労働者数のグラフには、労働者総数のほかに女性労働者、男性労働者別のグラフも同時に記されているのであるが、このグラフから産業革命の進展を考察することもできる。また昭和の初期に男性労働者数が女性労働者数を追い越すのだが、この変化を産業構造の変化や政治状況と重ね合わせて考察することもできた。準備や授業展開の工夫によっては所期の目的をかなり達成できるのではないかとこの感触を持った。

②「高度経済成長とその終焉」

神武景気、インスタントラーメンの登場、所得倍増政策、アジア情勢の変化、いざなぎ景気、ニクソンショック、第一次石油危機以降の日本、プラザ合意とバブル経済の崩壊、五五年体制の終焉、失われた一〇年